【事業名】
きょうだい支援
かかりつけお兄さん・お姉さん

【実施団体名】

一般社団法人ari

1　事業実施団体について

事業実施団体の概要

- 一般社団法人ariは、宮城県仙台市を拠点にきょうだい（病気や障がいを抱える子どもの兄弟姉妹のこと）支援を3年間ほど実施してきました
- きょうだいは、家庭環境によって自分の気持ちを我慢しやすい傾向があると言われています
- 2023年の法人立ち上げ以降、きょうだいへの訪問支援「かかりつけお兄さん・お姉さん」を通じて50組以上のご家庭に訪問して悩みを聞いたり、子ども達のやりたいことを叶えてきました

２　令和7年度の実施内容

（１）課題

- 仙台市内には、慢性疾患や障がいのある子どものきょうだいが約5,000人いる
- 親が病児のケアに追われ、きょうだい児が孤独感を抱きやすい
- 学校や医療機関では支援体制が確立されておらず、健常児であるがゆえに支援の手が届きにくい。保護者も医療・経済的負担から社会的孤立に陥りやすく、家族全体が支援から遠ざかる
- 仙台市においてはきょうだい児とその家族が安心して地域とつながれる仕組みの構築が課題である

（２）事業の目的

- きょうだいが1人で悩まない社会を実現する
- 信頼できる大人・年上の存在との関係を通じて、きょうだい児の心理的安全性・自己肯定感・レジリエンスを高める
- 保護者との関係を補完し、「自分も愛されている」と実感できる時間を創出する
- 医療機関・教育機関・行政が連携し、きょうだい児支援を早期に紹介・介入できる新しい支援モデルを確立する
- 地域全体で家族を支えるネットワークを形成し、きょうだいが自分らしく成長できる仙台市を実現する

２　令和7年度の実施内容

（３）令和7年度事業の目標と実績

- 仙台市内のきょうだい児がいる家族42組と繋がる
- きょうだい42人に対して、対面支援を行う
- きょうだいへの対面支援利用者全員への継続的な意識調査の実施する
- 仙台市内の医療機関で慢性疾患や障害の診断を受けると同時に、そのきょうだいに対し我々のきょうだい児支援が受けられる環境を作る

２　令和7年度の実施内容

（４）事業の実施体制

小川泰佑：事業統括責任者
小野澤さゆり：経理部責任者
藤原拓真：事業戦略責任者
南理央：監事
ボランティア：事業運営

2　令和7年度の実施内容

（５）事業スケジュールについて

2025年10月～2026年3月
・訪問支援と家族交流会を継続
2026年4月～2030年3月
・訪問支援と家族交流会を継続
・他県での横展開開始

（６）使用経費について

収入科目	収入額
仙台市助成額	392,000円
自己資金	44,374円
事業収入	0円
合計	436,374円

		支出科目		支出額	内訳
支出の部	助成対象経費	人件費		367,834円	利用者家族へのアクティビティ・面談の実施、支援関係者との面談、利用者家族交流イベントの出席、面談（ヒアリング）結果の分析と事業内容の修正・検討に対する人件費
		報償費		0円	
		旅費		3,210円	ガソリン代（利用者ご家族や支援関係者との面談や交流イベントの際の交通費として）
		消耗品費		49,850円	きょうだい支援に関する書籍、活動に伴い必要となる事務用品の購入
		印刷製本費		1,980円	1,000円以下/月×4カ月（利用者家族への同意書等の印刷代）
		その他の経費		13,500円	研修費および学会参加費
		小計	①	436,374円	
	助成対象外経費		②	0円	
		合計（①+②）		436,374円	

３　実施した取り組みの紹介

（１）2025年度実績

【個別訪問】
個別訪問支援実施回数：80回
個別訪問利用者数：16名
【イベント事業】
イベント合計開催回数：7回（9月から開始）
イベント合計参加人数（子ども）：53人
イベント合計参加人数（保護者）：47人
イベント合計参加家庭数：40組
【その他実績】
メディア掲載数：新聞2回、テレビ1回、ラジオ2回
講演回数：3回
大学授業登壇数：2回
病院内きょうだい会サポート回数：3回
新規パートナー数：6団体

３　実施した取り組みの紹介

（１）2025年度実績

「仙台市内のきょうだい児がいる家族42組とつながる」
→50組以上の家族と繋がることができた

「きょうだい42人に対して、対面支援を行う」
→51人に対して、対面にて支援活動を行うことができた

個別訪問・イベント事業を通じて、子ども達に対して対面支援を行った。
支援の成果として、子ども達の願いが少なくとも130回以上一緒に叶えることと、保護者同士のネットワークを構築することができた。

3　実施した取り組みの紹介

（1）2025年度実績

イベントはデイキャンプやクリスマスパーティーなどを実施した。



3　実施した取り組みの紹介

（1）2025年度実績

【その他実績】

メディア掲載数：新聞2回、テレビ1回、ラジオ2回

→朝日新聞様、仙台放送様、NHK様

講演回数：3回

→一般の方向けに、きょうだい支援に関する内容で実施

大学授業登壇数：2回

→大学生向けに、きょうだい支援に関する内容で実施

病院内きょうだい会サポート回数：3回

→大学病院内のきょうだい支援イベントの運営を実施

新規パートナー数：6団体

→仙台市内の民間企業や個人とイベント等で協働

４　事業の成果と今後の展開

（１）2025年度実績

きょうだいをもつ保護者12名に対してインタビュー調査を行った。
インタビュー内容は、きょうだい・保護者それぞれの観点から質問した。

調査目的：きょうだいをもつ保護者の認識を把握する

調査手法：半構造化インタビュー方式

実施時期：2025年4月～2026年3月

対象者：12名の保護者

分析方法：インタビュー内容を質問項目のテーマに沿って定性的に整理・集約

4　事業の成果と今後の展開

（1）2025年度実績

インタビューの結果、きょうだいについて、以下の結果が得られた。

引っ込み思案・孤立傾向

学校では友達ができにくく一人になりがち。
家では自由だが外では物静か

「何がやりたい？」と聞かれたことがない

自分の希望を尋ねられる機会が少なく、興味ややりたいことが見えていない

ゲーム・スマホへの依存

外出を嫌い家でゲームに没頭。外の刺激が不足している

年上の人に懐きやすい

公園で年上の子に自ら近寄り遊んでもらうなど、年上との関わりを積極的に求める

エネルギーを発散できていない

本来は活発で遊びたいが外出制限・送迎困難で思い切り遊べていない

「お兄ちゃん・お姉ちゃん」役割が固定しがち

家庭内で年上として振る舞いやすく、子どもらしくいられる時間が少ない

4　事業の成果と今後の展開

（1）2025年度実績

インタビューの結果、保護者が望む支援として、以下の結果が得られた。

時間的支援

- 放課後（16～19時）の見守り・同伴
- 土日の外出・体を動かす活動への同行
- 習い事・公園などへの送迎

学習・成長支援

- 勉強の見守り・宿題サポート
- 「何がやりたいか」を引き出すきっかけ
- 体験の幅を広げる多様なアクティビティ

情緒・関係的支援

- 親に言えないことを話せる安心できる存在
- きょうだい児同士が繋がれる場
- 自分だけの時間・自分らしくいられる機会

４　事業の成果と今後の展開

（１）2025年度実績

対面支援の利用家庭に対して、ヒアリングやアンケートを実施し、きょうだい本人や保護者が抱える課題・ニーズの把握を行った。

その結果、きょうだいは家庭内で我慢や孤独感を抱えやすく、保護者も「きょうだいに十分関われていない」という葛藤を抱えていることが見えてきた。

また、家庭外に安心して話せる大人や、継続的に関わる第三者がいることは、きょうだい本人だけでなく保護者にとっても安心につながる可能性が示された。

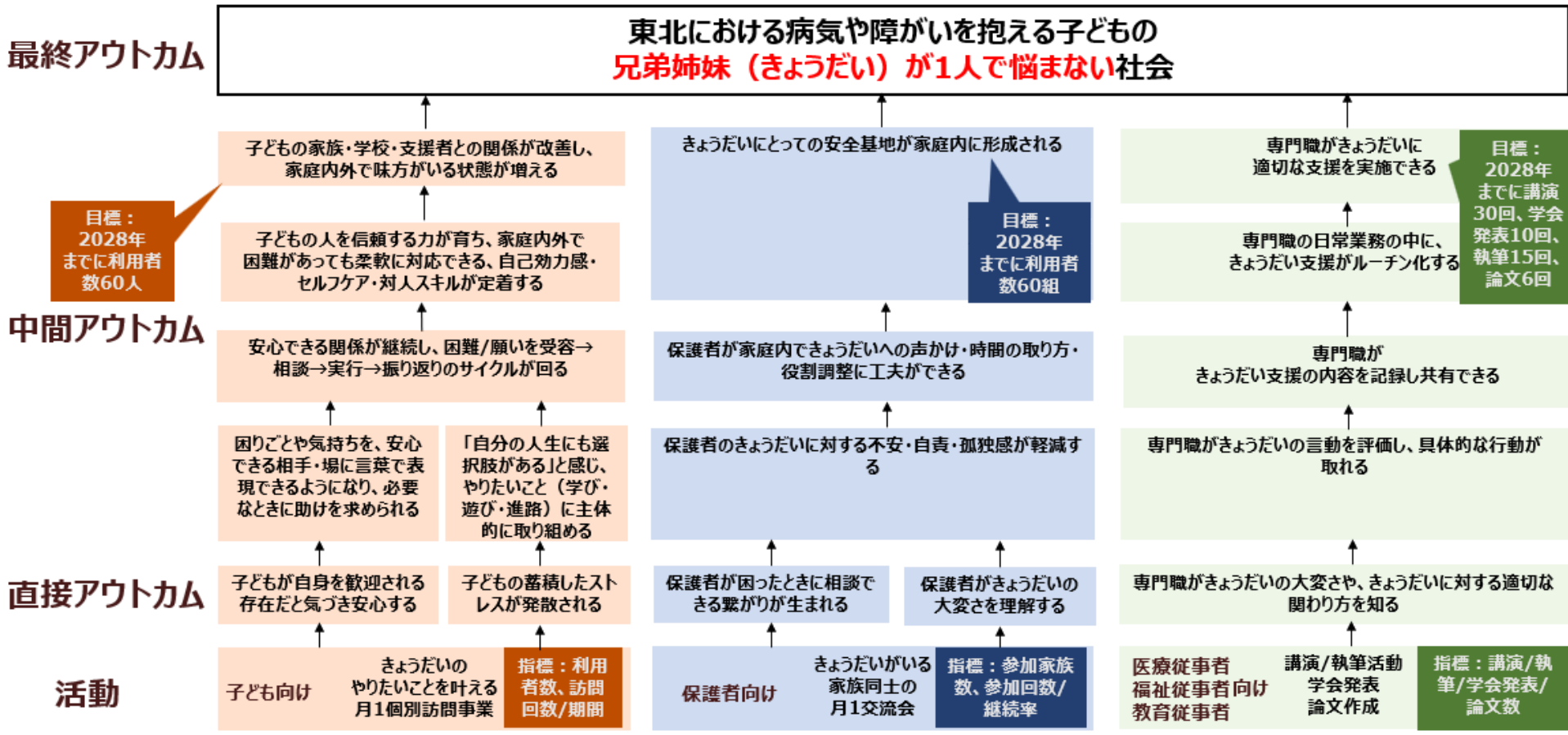
今後も、対面支援を一度きりの関わりで終わらせるのではなく、利用家庭の変化やニーズを継続的に把握し、支援内容の改善につなげていくことが重要である。

そのため、来年度以降も当法人内で、対面支援利用者への継続的な意識調査を実施し、きょうだい支援の質の向上と、より実態に即した支援体制の構築に活かしていく。

4　事業の成果と今後の展開

事業の成果と今後の展開について

インパクトモデル



Copyright ari All Right Reserved.

４　事業の成果と今後の展開

仙台市の皆様

この度は当法人のきょうだい支援をご支援いただき、
誠にありがとうございました。

我々は今後も子どもたちの今に寄り添う挑戦を進めてまいります。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人ari 代表理事　小川泰佑